

第5回 米子市美保中学校区義務教育学校開校準備委員会
教育環境部会議事録（概要）

- 1 日 時 令和7年10月7日（火）午後7時から午後8時30分まで
2 場 所 米子市立和田小学校 図書館
3 出席者

部会員

木村 俊二、岩田 昇、小林 つぐみ、眞田 三枝子、三村 大輔、
曾根 大二郎（副部会長）、足羽 直美、田中 翔大、竹本 法子、
太田 敦弘（部会長）、隠樹 恭衣、渡辺 和幸、西山 智広、本田 早弥香

説明のために出席した職員

【教育委員会事務局】

こども政策課長	永榮 一博
こども政策課長補佐兼指導主事	遠藤 幸子
こども政策課長補佐	井原 聡史
こども政策課調整官	隠樹 千佳良
こども政策課担当課長補佐兼指導主事	近藤 泰知
こども支援課担当課長補佐	植田 典子
こども政策課係長	松下 貴洋
こども支援課係長	上田 悠子

【こども総本部】

こども政策課担当課長補佐	國谷 建太
こども施設課保育リーダー	飯田 聡子

【総合政策部】

交通政策課長	倉本 樹
交通政策課主事	八田 悠司

4 次 第

- 1) 委嘱状交付
- 2) 事務局挨拶
- 3) 開校準備委員会設置要綱確認
- 4) 部会長、副部会長挨拶
- 5) 部会員自己紹介
- 6) 事務局説明
 - ・これまでの経緯と義務教育学校整備事業の進捗について
 - ・開校準備委員会と教育環境部会の組織について

7) 議事

義務教育学校の通学について

8) 連絡

今後の開催予定

5 概要

(1) 次第4) 部会長 副部会長挨拶

開校準備委員会委員長が指名した部会長 太田部会員 副部会長 曾根部会員が挨拶

(2) 次第6) 事務局説明

これまでの経緯と義務教育学校整備事業の進捗について

- ・令和3年4月に校区審議会を設置し、市教育委員会から美保中学校区の学校の在り方について諮問。同年9月に、3小学校（崎津、大篠津、和田）と1中学校（美保）を廃止し、新たに義務教育学校を設置する旨の答申。
- ・校区審議会の答申を受けて、同年10月に市教育委員会において義務教育学校設置の方針を決定。
- ・令和5年度に、崎津保育園及び小鳩保育園を統合し、義務教育学校と同一敷地内に幼保連携型認定こども園を設置する方針を決定。
- ・令和5年度から開校準備委員会、令和6年度から専門部会を設置し、調査・検討を実施。
- ・令和5年度末に基本構想を策定。
- ・令和6年12月に、当初開校目標の令和10年4月から開校時期を3年から5年延期。現在、令和13年4月を開校目標として事業を進めている。
- ・令和7年3月に造成設計及び建築基本設計が完了。
- ・令和7年4月に農地転用許可、開発許可。
- ・令和7年市議会6月定例会で財産取得に係る議案が議決。用地取得が完了。
- ・令和7年度中に造成工事及び建築実施設計着手予定。

開校準備委員会と教育環境部会の組織について

- ・資料に沿って説明

(3) 次第7) 議事 義務教育学校の通学について

協議 通学手段について

通学手段決定までの流れを確認した上で、校区や通学範囲の変化を踏まえ、義務教育学校開校後の通学手段について検討した。

(部会員意見)

- ・現在、中学生は距離に関係なく自転車で登校しているため、現行の通学手段を基本

に考えればよいのではないか。

- ・和田小学校区の中学生は通学距離が短くなるため、基本は自転車通学とし、徒歩で通学可能な生徒は徒歩とすればよいのではないか。
- ・小学生は通学距離が遠距離になることを想定すると、徒歩とバスの併用が望ましいのではないか。
- ・安全面、防犯面を考慮すると、通学バスがあったほうがよいのではないか。
- ・最低でも低学年は、バス通学が望ましいのではないか。
- ・和田小学校区は距離的な変化は大きくないが、冬季限定でのバス通学を検討してはどうか。
- ・長時間の徒歩通学は、防犯面や体調面での不安があるほか、送迎車の集中も懸念されるため、バス通学があるとよいのではないか。
- ・バス通学を実施する場合、運行するバスの台数について確認したい。

(事務局回答)

- ・通学手段の一つとして通学バスの運行を検討しているが、運行方法、車体及び台数については未定である。

(協議結果)

- ・美保中学校区義務教育学校の児童生徒の通学手段について、教育環境部会案は、次のとおりとする。
前期課程（1～6年生）：徒歩及び通学バス
後期課程（7～9年生）：徒歩及び自転車（生徒全員を自転車通学の対象とする）

意見交換 バス通学の対象者について

バス通学の対象者について対象児童生徒の範囲（学年等）、地理的条件等（通学距離等）を検討のポイントとして、グループごとで意見交換を行なった。

(意見交換概要)

- ・対象児童の範囲（学年）については1年生～3年生までとしてはどうかという意見であった。
- ・対象児童の距離については1 km～2 kmの範囲の中で考えてはどうかという意見であった。
- ・対象者を考える際には、距離だけでなく防犯面や体調面等も考慮する必要があるという意見もあった。